



発行 矢部川をつなぐ会  
 HP http://www.yabegawa.net/  
 Blog http://yabegawa.jugem.jp/  
 発行責任者: 松富士将和  
 事務局/山村塾・小森 八女市黒木町笠原 9836-1 えがおの森内  
 〒834-1222 9836-1  
 TEL/0943-42-4300  
 mail/info@yabegawa.net

～矢部川新聞は「山から海まで未来につなぐ 矢部川をつなぐ会」が発行する流域の情報誌です～

矢部川をつなぐ会は、この「宝物」に感謝し、それを次の世代に引き継ぐために平成17(2005)年11月に発足したネットワークです。持続可能な「懐かしい未来」を次の世代に残してゆくために、地域力を高め、連携を広めながら、誇りを持って守り育てていきます。

矢部川は、久留米藩・柳川藩の境川として流独自の文化や自然を育み、廻水路などの歴史的施設や、寺社や祭り、固有の生物種などの「宝物」が地域で大切に継承されています。

### 矢部川・矢の部の川。

# シンポジウム 「生き物に優しい川づくり」

九州北部豪雨から5年となる2017年7月15日に、矢部川の復旧・復興を見つめ、これからの矢部川を考えるシンポジウムを開催し、環境に配慮した「復旧・復興の在り方」を提言しました。

それを受けて、2018年12月8日には、生き物に優しい川づくりシンポジウムを開催しました。琵琶湖で環境問題に取り組んでおられる仲津英治氏の基調講演と、3人の専門家に、川の生きものについての現状や保護の在り方などの話を頂きました。今号はその報告号です。皆様の「生き物に優しい川づくり」の教材となり、お役に立てれば幸いです。



## シンポジウム 生き物に優しい川づくり

平成24年九州北部豪雨から6年。昨年の矢部川では34.1cmもの大鮎が釣れるなど回復の兆しが見えますが、「本当に生き物に優しい川になっているか」、「より豊かな生き物に優しい川にするためにはどうすれば良いか」を考えます。

2018年12月8日(土) 13:30~17:00 (13:00~受付)

八女市文化会館 多目的ホール 八女市本町 537-2

参加費: 無料 定員: 100名



### 主催: 矢部川をつなぐ会

後援 (依頼中含む): 福岡県、高城市町村(八女市、みやま市、筑後市、柳川市)、国土交通省九州地方整備局 筑後川河川事務所

※矢部川をつなぐ会 http://www.yabegawa.net/ 矢部川の自然環境を守り、文化を守る活動をしている流域の団体。矢部川の水に恵まれ、次世代に継承するために、平成17(2005)年11月に発足したネットワークです。

※この事業は平成30年度河川利用推進支援事業(一般社団法人北部九州河川利用協会)として実施します。

### 矢部川大鮎の会

発足: 2017年3月  
 構成メンバーは10人で、全員鮎釣師です。  
 代 表: 田中忠雄  
 事務局: 原野正幸

活動内容は、主に稚鮎の放流と河川清掃です。

河川清掃は、矢部川漁協主催で5月の第4日曜日に、関係各団体・ボランティア総勢800名で矢部川・星野川全域で行っております。稚鮎の放流は、3月末から4月にかけて矢部川漁協のお手伝いで行っています。また、矢部川・星野川の宝物である尺鮎(全長30・3センチを超える鮎)の広報活動もしています。

チャリティ釣り大会 in 矢部川は、北部豪雨災害復興支援の為に2017年・2018年に行いました。今年も開催予定です。

この会を立ち上げる事になったきっかけが2012年に起きた北部豪雨災害で

す。北部豪雨以前の矢部川・星野川にはたくさんの鮎が生息していました。それも矢部川でしかないほどの立派な尺鮎(全長30・3センチを超える鮎)を、9月以降になると東北・関東・関西など全国から来る鮎釣師達で賑わっていました。

2012年以降被害を受けた川の補修工事等で、鮎の数も激減してしまいましたが、年を重ねるごとに少しずつ増えてきました。しかし2017年、九州北部豪雨でまた鮎が減ってしまいました。矢部川でしかない尺鮎を未来の子供達に残す為に、我々に何か出来ないかと鮎釣り師仲間間で相談をし、この会を立ち上げる事になりました。

私達の目標は「矢部川を綺麗な川に、子供達が安心して遊べる川にする事、そして未来の子供達に尺鮎を残す事」です。



### 筑後・粹鷹

発足: 2017年8月5日  
 会員21名。芸術家や地域おこし協力隊、民間企業、主婦、公務員など多種多様な方々が集まりました。住まいも、筑後地区だけでなく、福岡都市圏や東京在住もいます。

「筑後に行きたかあ」と思ってもらえるように、筑後、特に船小屋の魅力を引き、伝えることを目的として、「筑後・粹鷹」は2017年8月5日に誕生しました。

これまで、矢部川流域のバスツアーや矢部川廻水路や若津港などの歴史を振り返る勉強会、そして、筑後七国のお酒を味わうなど、様々な取り組みを行ってまいりました。特に2018年7月28日の「船小屋花火大会」には、JR九州さんと連携して、新幹線筑後船小屋駅の2階テラスを機軸

席として一般の方々に楽しんでいただきました。もちろん地元のお酒や肴も提供しました。これは、将来、高齢者や障害者といった混雑が苦手な方々に、ゆつたりと花火を楽しむのでいただこうと社会実験的な取り組みです。

今後は、都市との交流に加え、自然環境や歴史、生物多様性を大事にしながら、筑後広域公園や矢部川中流域をどのように活性化するか? 民間の立場から提言していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願ひします。



この矢部川新聞第12号の発行については、(一社)北部九州河川利用協会の助成と、「鰻と川下りの大東エンタープライズ」の協賛を頂いて作成しています。

印刷  
 ㈱プリンティングコガ  
 大川市大字 木7365  
 ☎0944(8)0027

【編集後記】  
 毎年のことながら、年度末はいろいろな報告書の作成などがあり、ギリギリの仕上げになり、プリンティングコガさんには大変ご迷惑をお掛けしました。  
 丁度この新聞が出来上がる頃には、菜の花が咲き、桜もほころび始め、矢部川がいちばん美しくなる頃です。船小屋中島公園と筑後広域公園で探鳥会を行います。

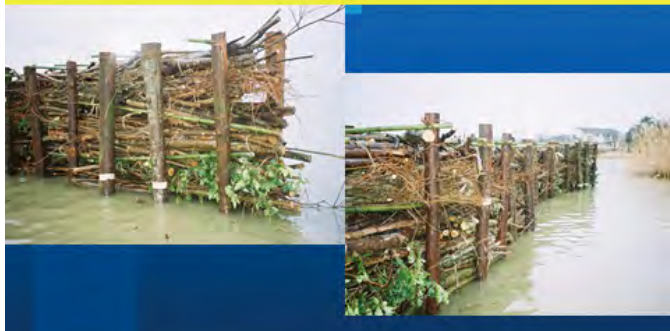
松富士



### 斜め板を取り付けた魚道



### 完成した消波堤



す。湖岸をコンクリートで固めたために自然体系が壊れて行ったのです。そこで私たちびわこ自然環境ネットワークでは平成15年に寺川庄蔵氏が中心になって、「びわ湖よしよしプロジェクト」を作り、まず間伐材と竹筒によるヨシの養生材を準備し、そして水辺の自然を絶対に壊さない、自然にあるものを使う、山

と湖をつなぐという方針で、市民が提案し、行動して間伐材と竹筒によるヨシ植栽を行って来たのです。ところが、やはり消波堤が波で壊れます。そのたびに補修を行います。これが行政とは異なる点です。4年間観察を続け、補修しつつ見守ったのです。

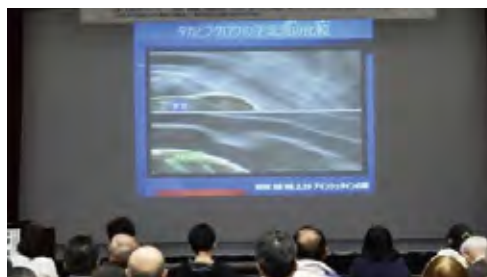
う事が判り、改良を行なう事になりました。そして、山から粗朶を採取しながら、湖の上に粗朶工をつくるという、こういう方法で山と水を繋ぎながら里山と水辺の復活に取組んだのです。

#### 魚の登れる川づくり

は、全部で500本以上あるのですが、そのうちかなりのものが砂防と取水のための堰が設置されています。ところが年月の経過と共に結局その堰に砂が溜まって両方とも役立たないという事になります。そこで私も魚道を作ってみようという事でトライをしたのです。長さ1.3m幅60cmの魚道と、深さ60cmの階段状の魚道をもうけました。その後、魚が遡上し易いように斜めの板材を追加したりしたら、3年後に鮎が大量に登っていたのを発見したのです。

もう一つこれが最後になります。石積み川復活プロジェクトです。三面張りで作られて川に、もう一度自然豊かで美しい石組の護岸を復活させたいと取組みました。

現在も時折補修に行っています。ここまですが琵琶湖自然環境ネットワークの中で私が参加をして実践したことです。



スライド提供:2008.2.19アインシュタインの眼(NHK-BS)

☆基調講演の仲津英治氏は、元JR西日本社員で、500系新幹線の設計・制作にあたり、自然界で一番静かに飛翔できるフクロウの羽根の仕掛けをパンタグラフに生かし、トンネル騒音問題を解決するため、先頭形状をカワセミの流線形に近づける提言をされました。星野小学校の子供たちのために、その「500系新幹線電車のカワセミとフクロウの話」の話もして頂きました。



提供:JR西日本



提供:JR西日本



提供:2004.3.19キャノンスペシャル(朝日放送)

## 琵琶湖の生態系の維持・回復の試み

「地球に謙虚に運動」代表  
びわこ自然環境ネットワーク会員 元JR西日本社員 仲津 英治氏

### 1. 琵琶湖の原状

●水辺から失なわれたヨシ帯・砂浜(生態系、風景への悪影響)・人工湖岸(コンクリート護岸)、湖岸侵食(砂防ダムによる土砂流入不足)、魚の登れない川(利水ダム、砂防ダム等が障壁)

### 2. 行政による粗朶消波工を使ったヨシ帯・湖岸の再生

●湖岸埋め立てによるヨシ再生・突堤による砂

浜再生、いずれも大規模な土木工事で解決を試みたが、ほぼ失敗。何故失敗したか。

①粗朶は波で洗われ流出し、また腐食もする  
↓補充する必要。行政は全く未補充。  
我々はヨシが根付くまで4年継続。

②竹筒のヨシ苗の活着率は低い。毎年活着状態を点検↓状況に応じ追加植栽が必要、ほとんどなされてない。  
湖岸再生(守山市、高島町、彦根市)  
湖岸侵食防止突堤による試み・いずれも大規模な土木工事で解決しようとした。

びわこ自然環境ネットワークの試みと成果  
湖岸より沖合い10メートルの粗朶消波工

のお陰で、湖岸にヨシが育つ。↓消波堤とヨシの間に砂が堆積↓砂浜の復活。

### 3. 市民の試み 平成15年(2003)頃開始

☆「びわ湖よしよしプロジェクト」  
NPO法人・びわこ自然環境ネットワーク  
間伐材と竹筒によるヨシ植栽・水辺の自然を壊さない、自然の素材を使う、山と湖をつなぐ、市民が提案し、行動する(霞ヶ浦のアサザプロジェクトが先行)  
栗見新田(能登川町)・現東近江市、高島市針江、びわ町(現長浜市)・いず



仲津 英治

れもヨシが活着し、成功。

### 4. 市民の試み魚道作り (市民参加山・川・琵琶湖をつなぐ)

魚の登れる川作り・琵琶湖に流入する川に、魚が登れるように！階段状の魚道を設置。

### 5. 石組みの川復活 プロジェクト

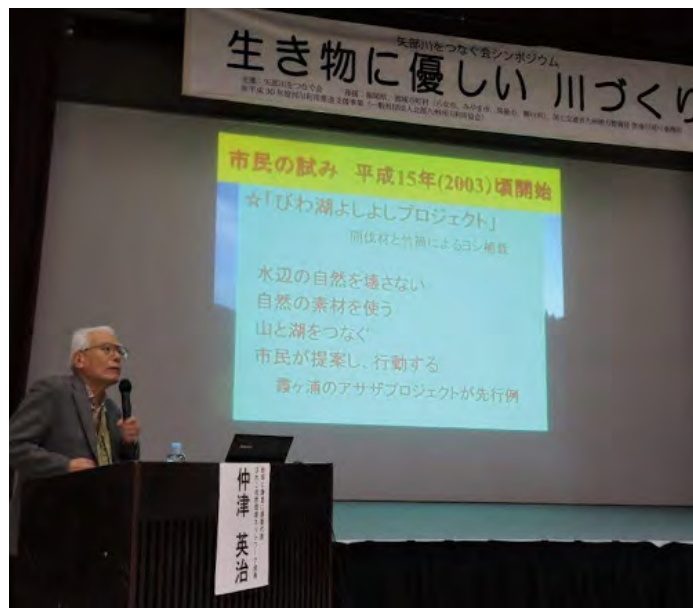
●コンクリート化が進むまでの河川は、土の堤防か、石組みの堤防であつた。それは、自然豊かで美しかった。もう一度、その自然豊かで、美しい石組みの河川を復活させる取組み。

#### ヨシの復活の試み

琵琶湖は、660平方キロメートルの湖で、矢部川の流域面積がほぼ647平方キロメートルですから、ほぼ同じような面積になります。近畿一円1,400万人の水

源になつてはいるんですが、同時に色んな生き物もいます。平成6年に濁水がありました。ちょうど仲津は福岡におりまして、16時間断水と云う大濁水を経験しました。しかし、時々大阪の方に帰りますと、琵琶湖の水位が1m下がっていたものの殆ど給水への影響はなく、その容量の大きさを改めて認識しました。しかし、一方で琵琶湖には大変な自然の課題

がある事を知りました。ひとつはヨシ帯が大幅に減っている事です。それからもうひとつ起こっていたのは、浜欠けという現象でして、琵琶湖には500本の河川が流れ込んでいるのですが、たくさん砂防ダムを作り、砂が流入するのを止めたものから、結果として砂が入らなくなつて、砂浜が減少する浜欠けが起きたのです。それから、護岸工事で



## 生き物に優しい川づくり

市民の試み 平成15年(2003)頃開始  
☆「びわ湖よしよしプロジェクト」  
間伐材と竹筒によるヨシ植栽  
水辺の自然を壊さない  
自然の素材を使う  
山と湖をつなぐ  
市民が提案し、行動する  
琵琶湖のアサザプロジェクトが先行例

仲津 英治



### 星野小学校発表

#### 棚田の生き物調査・川の水質調査

星野小学校の皆さんが、7月の棚田の生き物調査と10月の川の水質調査の発表をしました。

#### 1、星野広内の棚田の生き物調査

2018年7月9日

はじめは、土の中がぬ



るぬるしていて変な感触でした。でも、水の中をよく見ると小さな生き物がいることが分かりました。その生き物を、網を使って捕まえました。その中には、サワガニ、ゲンゴロウ、アカハライモリ、ヌマガエルなどがいました。アカハライモリは、流



れがない淡水中に生息します。また、山や田んぼがないと生きられません。ここ、星野で見られるのもとても貴重なことだと聞きました。

#### 2、星野川(千々谷河川公園)での川の水質調査

2018年10月11日

まずは、石についている生き物を網で捕まえました。捕まえた生き物は、カワゲラ類、ヒラタカゲワラ類、ナガイトカワゲラ類、トビケラ類、ヤマトビケラ類、サワガニ、ドングリなどを捕まえました。その中で一番多かったのはカワゲラ類でした。

DOの数値が高いほど、生き物が住みやすいという事です。結果は濃い青で、酸素の量が多いことが分かりました。

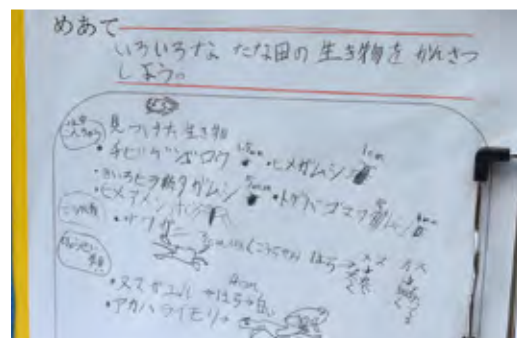


私達は、このきれいな水を守り、受け継いでいきたいです。



これらの生き物は、水がきれいなどところにいる生き物だけだったので星野川はともきれいな川だということが分かりました。次にバックテストで、DO、COD、PH、透視度の4つで調べました。DOは、水中に溶け込んでいる酸素の量の事で、

低いほど水がきれいという事になります。実際に調べてみると、うすいピンク色になりました。また、PHも中性で、透視度も高く、星野川はともきれいなことが分かりました。私は福岡市から山村留学で来ているけど、福岡市の川はとも汚かったです。でも星野川の水はともきれいで透き通っていてびっくりしました。



### 「○○○○○○○○○○」

教育ジャーナリスト・予防医学教室経営 中村 弥和氏

医療現場革命により農業、食、医療、環境の改善が求められています。すべての分野の改善に微生物Bioが求められています。環境改善には個々、人の意識が必要なのに、草の根運動・団体などの声かけも重要になって来ています。

知り合いの大学教授も「微生物による環境蘇生を急がないと!!」と福岡南部の河川の蘇生を語られています。

河川は人々が生活する原点であるから、その環境蘇生が大事な事です。今、政府がバイオ事業を推奨している其の先にある、微生物による医療、食改善、環境蘇生の新しい情報などをお知らせします。

私はもと熊本放送に

いて、その後TBSで全国放送のラジオ教育番組を20年くらいやり、日本だけでなく世界中を取材して回るお仕事をさせてもらって来ております。今回は川という事に焦点を絞ってお話します。日本の川の水質が変わってきている。川の中の微生物の状況がすごく変わってきています。除菌・除菌できて抗生物質を沢山使った、悪い菌だけじゃなく、良い菌も死滅させてしまってきた、そのツケが回ってきているのかなと思います。

微生物には、善玉菌、悪玉菌、日和見菌があり、三つのバランスがお腹だけではなくて、私たちの肌もすこやかに保てます。空気も床も、自然界も全部です。この菌バランスが崩れると、災害が起きた後の感染症、2週間以降に感染率がものすごく上がります。命にかかわる大事な事です。実は、川の中は空気中よりも菌がたくさんいます。水田1グラムあたりに10億います。河川1mに数億万の微生物が生息していると言われています。



堆肥づくりの際に乳酸菌や酵母菌をつかってそれが川に流れると、川できちんと分解してくれるんですね。それで最終的に分解できないものは何なのかと言うと、界面活性剤です。洗剤、香料、保存料。こういう物が大量に川に流れています。分解できなければ川は本当に悪臭を放ちます。発酵ではなく、腐敗に向かいます。医療業界が新薬の開発などでバイオ事業に目を向けています。微生物と共生による予防医学を語れないというのを、いまのドクターたちが最先端の医療の発表の中で話しています。

もうひとつは家庭排水をどうするのかということ。川を守る、山を守るという事が廻り回って健康につながるのです。最後にありますが、肌についている微生物が善玉菌でいっぱいであると、除草剤が流れ込んで川に入っても化学物質を分解してくれますが、黄色ブドウ球菌を肌を持つアトピーのお子さんは、痒くなる症状を発症してしまう可能性があります。



「自然との共生」とい

が、きちんと情報を読み取る事が大事です。



# 矢部川の鳥獣について

日本野鳥の会筑後支部

支部長

松富士将和氏

矢部川は、幹川流路延長61km、流域面積647km<sup>2</sup>の二級河川です。(109ある一級河川のうち、流路延長は全国第81位、流域面積は全国第84位。)

\*上流域・源流域には、ブナやシオジなどの広葉樹の原生林があり、山地・溪流沿いには杉や竹林、茶畑が広がっています、山地にはクマ

タカ(絶滅危惧IA類)が繁殖し、日向神ダム湖畔には、絶滅危惧IB類のブツポウソウ(2014年に30数年ぶりに飛来、以後毎年繁殖し、オシドリも繁殖しています。溪流には、ヤマセミ、カワガラス、ミソサザイなどの鳥が住み、夏にはアカシヨウビンにオオルリやキビタキ、クロツ



グミが渡って来て美しい鳴き声を響かせます。\*中流域は、八女丘陵と茶や果樹園が多く、矢部川沿いには楠林が連なりやがて平坦地になると市街地になり、下流になるにつれ田んぼが増えてきます。ここには7アトリやイカル、コイカルなどが飛交い、

河原では日本の国鳥害であるキジを見かけることもあります。

\*下流域は、干拓によって造成された田んぼが広がり、瀬高堰からは潮の満ち引きがある汽水域となり、最下流部では泥質の干潟が現れ、有明海に注ぎます。河口域にはクロツラヘラサギ(絶滅危惧IA類)ズグロカモメ(絶滅危惧IB類)それに筑紫の名がついた美しいツクシガモ(絶滅危惧II類。沖の端川

河口では、2014年には1000羽を越す群が飛来)など、矢部川流域で200種近い野鳥が確認されています。哺乳類では、筑後川にいるキツネは確認

されていませんが、タヌキ、イノシシは、良く見かけます。県のレッドデータブック2011では、ヒナコウモリ、ヤマネ、カヤネズミが絶滅危惧種、カワネズミ、コキクガシラコウモリ、ユビナガコウモリ、ニホンザル、ムササビ、スミスネズミ、ハタネズミ、イタチ、アナグマが準絶滅危惧種となっています。

これら、希少種の保護とともに、今問題になっているのは、有害鳥獣・イノシシや、シカの問題があります。県は第二種特定鳥獣管理計画を立てて、その対策に取り組んでいます。が、過疎化が進み、人が少なくなった地域では、農作物の大きな被害が出ています。シカは、筑豊や求菩提地区、古処山系では大きな被害が出ていますが、矢部川流域では、筑後川が盾となってその進出を食い止めていると言われています。が、それは、今



閉会挨拶

は昔の話で、矢部川上流域、笠原地区でも数頭のシカが確認されています。カワウも、筑後川では数百羽の群れが確認されていて、まだ数十羽の矢部川ですが、早目の、適正な管理計画を立てなければ、大きな漁業被害を生じることになるでしょう。

鳥は環境のパロメーター。これは、鳥が一番姿を見つけてやすく、また声でも分かるので、鳥がエサとなるものがなくなったり、繁殖する場所がなくなったりいなくなる。ということがすぐに分かり自然環境が悪くなったことを鳥がいなくなつたという事で、知ることが出来ます。いつでも鳥がいる自然環境豊かな矢部川であることを願っています。

# 矢部川の生き物とその保全

福岡県保健環境研究所

中島 淳氏

私の専門は川の魚、川の水生昆虫です。九州全体でだいたい183種類の魚が記録されています。実は福岡県は九州の中でも非常に淡水魚の多様性が高い地域で、そのうちの137種、九州の75%の淡水魚が福岡県に分布し、矢部川にはその半分以上が分布するので、つまり九州の全淡

水魚の半分近くが矢部川にも生息することになります。特に、生淡水域で暮らす純淡水魚だけにかぎると35種・亜種が記録されていて、これは筑後川と並んで九州で一番種数が多いです。九州全体から見ると83%の純淡水魚が矢部川において見られます。特に淡水魚の保全を



考える上で矢部川の環境は非常に重要で、矢部川が悪化してしまうと九州全体の淡水魚の多様性が下がってしまいます。九州を代表する固有種がカゼトゲタナゴ、アリアケギバチ、アリアケヒメシラウオ、セボシタビラです。この4種は世界中でも九州にしか生息していない固有種で、当然矢部川水系にも生息しています。この4種は矢部川を考えると非常に重要な魚ですね。

それからもう1種九州の固有種がいます。これは私が新種として名前を付け2012年に発表したアリアケスジマドジョウです。佐賀県の六角川水系から、筑後川、矢部川をはさんで熊本県の菊池川水系だけ

に分布する、非常に狭い分布域を持つドジョウの仲間、矢部川水系は筑後川と並んで分布の中心となります。ぜひこの機会にこのアリアケスジマドジョウの名を深く刻んで頂きたいと思えます。他にも九州のみに分布する陸水性生物でいづれも矢部川水系でもみつかっている種が、アリアケシラウオ、エツ、ハゼクチ、ワラスボ、ヒナモロコ、ヤマノカミ、ムツゴロウ、ヤベガワモチ、ハラグクレチゴガニ、シチメンソウです。日本では有明海周辺にしか生息をしていませんが、朝鮮半島や中国大陸には広く分布している種類で、20、00年前の最終氷河期に分布を広げて九州にやってきたという種類なので、九州の地史を考えると非常に重要な生物です。特にこのヤベガワモチは干潟にいる殻がないマキガイの仲間、名前の通り世界で、

矢部川で初めて見つかった生物です。この機会に覚えて戴きたいですね。それから、九州全体でも矢部川水系と筑後川水系の山間部だけでみつかっている水生昆虫のタテスジマルヒメドロムシ、矢部川だけでみつかっているクロヒゲコマルガムシなど、珍しい昆虫も暮らしています。

非常に高い山から流れています。また中流下流に良い環境があつて、さらに河口には有明海があり、干潟があつて、干潟にヤベガワモチがくらしている。もう一つ矢部川周辺で重要な環境が農業用水路ですね。元々が矢部川周辺の自然の湿地帯で、これを長い年月をかけて水路・水田地帯にしたために、以前からいた湿地帯の魚が生き残っているんですね。たとえばカワバタモロコやニッポンバラタナゴなどですね。ニセマツカサガイという貝は柳川ではじめて見つかったもので、Inversiniao yanagawensisという学名がついていますが、こういったものも川の環境を考えると非常に重要な種類です。

それから色んな環境があるということで、山地溪流ですね。矢部川の源流地域の標高は1,000mを超えていますので、

生物多様性保全のためにも、これらの多様な環境を守り、生き物に優しい川であることが大事です。

生物多様性保全のためにも、これらの多様な環境を守り、生き物に優しい川であることが大事です。



# パネルディスカッション

ファシリテーター ●●●氏 ●●●氏 ●●●氏 ●●●氏 ●●●氏

司会者 『生き物にやさしい川づくり』というところの中で「どういったことが出来るか」、「どういったことをしていくべきか」ということで話を進めておられます。



Q：農業地帯が、住宅地に代わり、水路はコンクリートの雨水排水路になり、洪水にならないように本流から分断されて魚が住めるところで無くなった。ヒナモロコとかウグイとかタナゴとかいたが最近めつぎり少なくなっている。矢部川をつなぐ会のシンポには毎回参加して何かヒントがないかと思っ

A中島：まず魚というところで私からお答えしますが、農業用水路であっても要望があれば生き物に配慮する形で作るという方針になっており、実際、県でも20

13年に生物多様性戦略をつくって生き物に配慮した護岸とかそういったものが出てきています。A松富士：北部九州豪雨から5年ということで発行した矢部川新聞第11号に、段差を作るとか、河川の形を湾曲にするとかの事例を書いています。



A中島：小さな自然再生という概念もありますので、ちよつとずつ楽しみながらそういった場作りを話し合いをしながら進めて行くというところが本場に生物にとつて意味



があると思えます。

Q：水中の生き物についてはあまり考えてなくてインフルエンザが蔓延しないようになど、除菌の機械とか置いていたのですが、いろんな水中の微生物を殺してしまうのだったら意味がなく、逆によくないのかなと、気になった所です。

A中村：「本場にそこがすごく問題です。感染症などに関しては、九州では長崎大学がすごく研究が進んでいる。菌を殺してしまうとそこにくれた善玉で、私達に有益に働いてくれた微生物たちも全部殺してしまふ。じゃあその後にはどの菌が今度そこで繁殖できるのかという問題になるんですね。善玉菌を増やす活動をどんどんしていく方が実は「除菌除菌」としていくよりも経済的、コスト的にも良いということがあります。



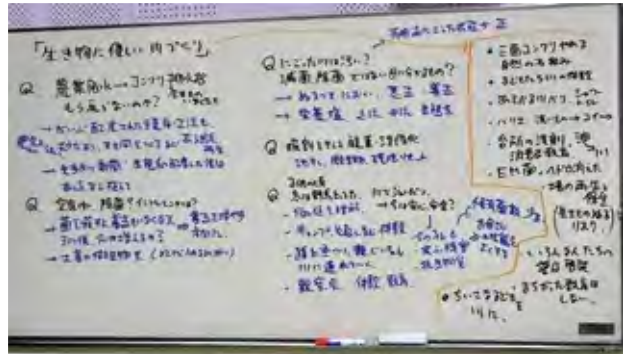
A中島：補足ですが、矢部川水系にも未知の微生物はたくさんいるわけで、そういうものをちゃんと扱っていく事も生物多様性には含まれていますが、一方で県としてはEM菌の水質浄化の効果は認めています。EM菌については外来種です、これからは在来種である土着菌を活用した水質改善などが重要だと思えます。



Q：子どもたちの発表で思ったのだが、「澄んでいるのはきれいな川、濁っているのは汚い川」ではなく、「そこに住んでいる生き物が住みやすいか、人間がその環境を急激に変化させていないか」という目線で「生き物にやさしい川づくり」を考えたいかなければならない

A中村：微生物があまりにも数が多すぎて曖昧過ぎることが多く、人が微生物と共生していくなかで一番の目安は「ぬるつきが来て、腐敗と臭いがしてくる」という標準値を知ることがとても大事。バイオ事業というのはこれから幅広く活動してくる分野になる。

A中島：特に九州・有明海沿岸の人は「濁ったきれいな水、美しい泥」ということを知っているの、「水はきれいであればあるほどいい」という時代は終わった」ということは



ぜひ注意点として知っていてもええたらな、と思います。

Q：昔から筑後・柳川地方では掘割の水を抜く掘干をする。酸素にさらすんですね。そうすると臭くならないんですね。昔からの知恵をぜひ今でも参考になればと思



の取り扱い方というののも今後も重要になってくると思います。

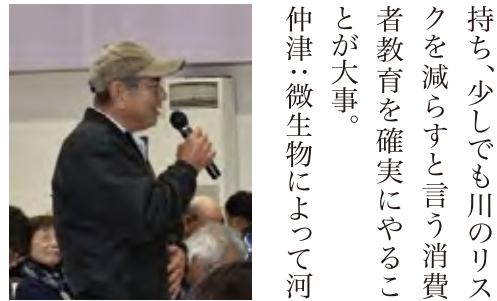
Q：私は昔から矢部川源流に住んでおりますが、最近の子ども達をみると痛切に「かわいそうだな」と思っています。今の子どもたちは「山に行つて遊ぶとか、川で泳いで遊ぶ」ということをどう

思っているのか星野の子どもたちに質問したいですね。

中島：鳥は今捕まえてはいけないことになっていきますけれども、生物が貴重な物から、子供が捕つても減らないというレベルまで増えればそういう話にはならないと思います。

仲津：親父が漁をやっていたものですから、川によく連れて行かれて、泳ぎを覚えたんですが、子供が三人は、大阪生まれ大阪育ちですからキャンプに連れて行きました。それで自然好きの子供になりました。

中島：基本的には親が連れて行くしかない状況ですね。さて、優しい川づくりには何が重要で、どのよう



とこには駐車場があり、トイレ・水道とシャワーがある。行つて遊ぶことができる。そういった所を行政の方も取り入れて安心して遊べる川作りを作つて戴きたいです。

色んな立場の人に対する普及啓発が生き物の為ならず自分の為にもなるという事を意識して戴くことが大切だと思います。

松富士：息子は、2歳の頃から高良山に連れて行き、中学校になつても勉強よりもキャンプに連れて行つていました。孫が今高校生になつて受験勉強で疲れたのか「釣りに行きたい」というので矢部川に連れて行きました。自分で釣つた魚は料理をして食べました。川で、遊ばせる事が重要だと思えます。

松富士：矢部川流域には川遊びに適した場所が数多くありますので、ぜひお子様方とお出で下さい。



# 矢部川をつなぐ会の活動

2018年度は、  
こんな活動をしました

偶数月にミニ講演会、6月に総会と、適時にシンポジウムや現地観察会を行っています。

日程	出席人数	内容	講演タイトル/備考	講師
4/11(水)	25	ミニ講演会	平成29年九州北部豪雨森林被害について	福島敏彦さん
5/14(火)	20 10	意見交換会 定例会	※河川協力団体との意見交換会	
6/15(金)	19	総会・講演会	総会・講演会 基調講演「星野で50年」	山本源太さん (星野焼 源太窯)
8/7(火)	10	ミニ講演会	停滞水域の富栄養化による 水質の悪化	富山裕さん (かんばんりよるよ星野村)
10/9(火)	14	ミニ講演会	有明海の漂着ごみ	本間雄治さん (NPO法人大川未来塾)
10/11(火)	29	水辺の生きもの調査	星野川・千々谷河川公園	星野小学校
11/4(日)	2団体	水もり自慢北九州	活動報告発表	大鮎の会 野鳥の会筑後支部
12/8(土)	85	シンポジウム 忘年会	シンポジウム 「生き物に優しい 川づくり」	
2/12(火)	17	ミニ講演会	有明海の潮汐について	荒牧 軍治さん(嘉瀬川防災 施設さが水ものがたり館館長)



川の生きもの調査



ミニ講演会

## 【会員募集中!】

矢部川をつなぐ会は、矢部川の自然景観を守り、文化を守る活動をしている流域の団体が、矢部川の水の恵みに感謝し、次世代に継承するために、平成17(2005)年11月に発足したネットワークです。構成団体は、9団体です。

流域で活動されている団体や、個人の方の入会を募集中です。

**正会員**(団体のみ)5,000円、**賛助会員**(個人3,000円(一口)、団体5,000円(一口))矢部川の川上から川下での連携・交流へのご参加ご協力をおまちしております。活動へのご寄付もよろしくお願ひします。

**お申し込みは・事務局 山村塾・小森迄**

〒834-1222 八女市黒木町笠原9836-1 えがおの森

☎0943-42-4300

振込先:福岡銀行(普通)1661129 矢部川をつなぐ会

代表理事 松藤 将和

# シンポジウム(生き物に優しい川づくり) アンケート集計表

## 1、参加者(年代・性別)

NO	年代	男	女	計
1	10	0	1	1
2	20	1	1	2
3	30	2	2	4
4	40	2	1	3
5	50	4	2	6
6	60	8	0	8
7	70	6	2	8
8	80	1	0	1
9	不明			2
	計	24	9	35

## 2、住まい

矢部川流域	4
八女市内	8
福岡県内	20
佐賀県	2
その他	1
計	35

## 3、情報入手先

知人紹介		11
チラシ	郵送	5
	八女市役所/交流館	2
	山村塾	1
	水もり自慢会場	2
	河川事務所	1
	その他	5
新聞	朝日	1
インターネット	SNS/FB	1
	その他	2
その他		4
計		35

## 4、特に印象に残ったことは

星野小の子どもの発表に希望を受取った(など関連5件)／バイオ&微生物の話は目からうろこ(など関連7件)／矢部川の固有種のことなど／生物多様性も大切なのだと考えを新たにしました。／ディスカッションは面白かった。(など関連3件)／水は濁っていても良い／琵琶湖は、洗剤の問題でもあり、葦のことも参考になった(など関連3件)

## 5、「生き物に優しい川づくり)について、これからどうあるべきだと思いますか?

- 子供たちを川で遊ばせる。川を知ること(など関連5件)／界面活性剤を減らす。
- 人間の目線ではなくて、生き物の目線で川を見たい／出来るだけ自然に近い状態に戻す。
- 大学の土木工学の中に多様な生物がすめるような技術研究、開発をしていくべきと思う。
- 生物多様性に基づく川づくり(関連3件)／人間がちゃんと自然に向き合うことが大事。

## 6、その他 ご提案、ご意見など

- 「美しい土」「きれいな濁った水」発信したくなりました。(関連3件)
- 菌との共生…健康を守ることに。家庭排水…除草剤のみなおし(など関連4件)

## 7、印象に残った意見

- 「行政任せにしない」「何故、河川管理者は出ていないのか!」vs.「もういい加減で行政批判は止めませんか?!」という意見も。
- パネルディスカッションがあまり好きではないのですが、今日のような話題豊富な内容と会場からの質問中心だと充実してて良いと思いました。

などなど、貴重な意見を沢山ありがとうございました。